

喜多方で  
環境にやさしい農業を考える。



喜多方市環境にやさしい  
農業推進協議会



環境にやさしい農業取組農家  
左から 相田 恭平さん、小島 潤さん

## 「環境にやさしい農業」を知っていますか？

この冊子は、農業を始めたい方や、すでに営農されている方に向けて、「環境にやさしい農業」を1つの選択肢として考えてもらうことを目的に作成しました。

農業には様々な進め方、選択肢がある中で、この機会にぜひ「環境にやさしい農業」について考えてみてください。

01 知る 環境にやさしい農業とは何か P 2

02 備える 環境にやさしい農業に取り組むためには P 3 - 4

03 学ぶ 環境にやさしい農業に取り組む人たち P 5 - 6  
～ファーマーズインタビュー～

04 挑戦 環境にやさしい農業との相性チェック！ P 7  
～適正診断ツールを使ってみよう～

### 喜多方市オーガニックビレッジ宣言について

当市は、福島県北西部の会津盆地北に位置し、飯豊連峰や磐梯山を望む雄国山麓などの山々に囲まれた、田園地帯の広がる自然豊かな地域です。古くから食味・品質・生産量ともに全国トップクラスの米どころとして日本の食卓を支え、酒・味噌・醤油などの醸造業も受け継がれています。環境にやさしい米づくりも盛んでしたが、原子力災害や労働力不足により有機農業の取組面積は減少しています。一方で、気候変動を背景に環境配慮型農業が世界的な潮流となる中、農業が基幹産業である当市では、生態系を生かした持続可能な農業を広げ、豊かな自然と田園風景を未来へつなぐ必要があります。このため、生産者・消費者・実需者が協力し、有機農業の復興と創生を進め、カーボンニュートラルの実現を目指す「オーガニックビレッジ」を宣言します。

令和6年5月15日

喜多方市長 



# 「環境にやさしい農業」とは何か

## ■ 環境にやさしい農業とは

環境にやさしい農業とは、化学肥料や化学合成農薬の使用をできるだけ抑え、土壌を豊かに保ちながら、環境への負荷を減らし、将来にわたって安定した生産を目指す農業のことです。

近年、地球温暖化や気候変動への対応、農業資材費の高騰など、日本の農業を取り巻く環境が厳しさを増す中で、地球環境への負担を抑え、安全・安心な食を求める意識が高まっています。

こうした背景から、農林水産省では「みどりの食料システム戦略」を策定し、2050年までに有機農業の取組面積を耕地全体の25%（約100万ha）に拡大することを目標に掲げるなど、「環境にやさしい農業」の推進に向けた取組が活発に行われています。

※ 本冊子でいう「環境にやさしい農業」とは、「有機農業を含む土づくりを通じて化学肥料や化学合成農薬の使用を減らし、物質循環機能を活用して環境負荷を低減する持続的な農業」と定義します。

## ■ 環境にやさしい農業の4つの利点

1

### 1 土壌の健全化

化学肥料や化学合成農薬の制限により、土壌中の有機物や微生物が増殖し、土地が痩せるのを防ぎます。

3

### 3 温室効果ガス削減

化学肥料の製造や使用を抑えることで、製造過程でのエネルギー消費や温室効果ガスの排出を減らすことができます。

2

### 2 生物多様性の保護

化学肥料や化学合成農薬の削減により、土壌に住む微生物、昆虫、小動物など、多様な生態系が守られます。

4

### 4 環境負荷の低減と資源の循環

化学肥料や化学合成農薬による環境汚染を防ぎ、家畜ふん尿や食品廃棄物を堆肥として活用するなど、資源を有効利用できます。

## ■ 環境にやさしい農業のイメージ図



# 「環境にやさしい農業」に取り組むためには

## ■ 自分に合った栽培方法について考える

「環境にやさしい農業」といっても、その形は1つではありません。それぞれの栽培方法には特徴があり、地域や経営の状況に合わせて選ばれています。下の図では、環境にやさしい農業と慣行農業の特徴について、「生産」・「販売・流通」の視点でポイントを整理しました。まずはそれぞれの特徴を知り、自分の農業に合う考え方や栽培方法について考えるきっかけにしてみてください。

化学肥料・化学合成農薬の使用割合・使用量

不使用

50%以上削減

基準内で使用

### 有機農業

化学肥料・化学合成農薬を  
原則使わない栽培方法

定義

- ・化学肥料及び化学合成農薬を原則使用しない
- ・遺伝子組換え技術の利用等を行わない
- ・農業生産に由来する環境への負荷をできるだけ低減する

特徴

- ・環境や生態系への配慮、安全・安心な農産物を生産できる
- ・病害虫発生時に化学合成農薬を使用できず、収穫量が減少する可能性がある
- ・管理に手間がかかるため生産コストが高くなる
- ・有機JASマーク※1を取得すると「有機」や「オーガニック」と表示して販売可能

### 特別栽培

化学肥料・化学合成農薬の使用量・回数を  
50%以下に抑えた栽培方法

定義

- 地域の慣行レベル※2に比べて、
- ・節減対象農薬の使用回数が50%以下
  - ・化学肥料の窒素成分量が50%以下で栽培

特徴

- ・土壌や水質への負荷を減らすことで、地域の自然環境の保全につながる
- ・化学合成農薬に頼らない病害虫防除、除草対策が必要
- ・販売時に、農林水産省の表示ガイドラインに基いた栽培履歴等の明記が義務

### 慣行農業

化学肥料や化学合成農薬、農業機械を  
適切に使用する栽培方法

定義

- 地域ごとの「地域慣行栽培基準」に基づき、農薬の散布時期・回数、肥料の窒素成分量などを管理する、一般的に普及している手法

特徴

- ・病害虫管理、栽培管理が比較的容易であり、安定した収量を得やすい
- ・化学肥料・化学合成農薬の利用で、周辺環境への影響が懸念される

※1 有機JASマーク：有機JASの基準に沿って生産が行われていることを、登録認証機関が検査し認証した事業者だけが使用できるマーク

※2 地域の慣行レベル：各地域で慣行的に行われている節減対象農薬及び化学肥料の使用状況

## ■ 環境にやさしい農業へ取り組む前に

環境にやさしい農業に取り組むに当たっては、今の自分の立ち位置を確認し、将来的にどこを目指すのか、それに向けてどのような準備が必要なのかを整理しましょう。

人によって進め方はさまざまですが、下のフローを参考にどのような準備・段階を経て検討することが望ましいのか、自身の考えを整理する一助としてください。

### 新規就農者の方へ

特に新規就農の方は、最初から環境にやさしい農業に挑むのはハードルが高いため、まずは慣行農業で着実に経験を積むことから始めるなど、段階的に環境にやさしい農業へ移行する進め方も検討してみてください。



喜多方市新規就農パンフレット

### 01 情報・基礎知識の収集

正しい知識を身につけ、自分に必要な準備をイメージすることが重要です。本やインターネットだけではなく、地域の農業事情に詳しい市の窓口や農業普及所へ相談するとよいでしょう。

### 02 体験（研修）・見学

研修機関や先輩農家等、環境にやさしい農業を実際に体験（研修）してみることも重要です。理想と現実のギャップが埋まり、今自分に何が必要なか確認できます。体験（研修）・見学については、市の窓口や農業普及所、福島県の有機農業推進室などに相談するとよいでしょう。

### 03 計画立案（独立就農の場合）

自分に合った環境にやさしい農業の進め方を考えましょう。生産面だけでなく、販売の視点も重視し、無理なく継続して取り組めるような営農計画書を作成しましょう。  
※営農計画書はできるだけ多くの人に見てもらい意見をもらうようにしましょう。  
※P7の「環境にやさしい農業との相性チェック！」も参考にしてみてください。

### 04 就農（転換）準備・最終確認

農地さがし、家さがし、農機具や農資材の準備は万全かしっかりと確認し、備えましょう。営農計画書に基づき、あせらず1歩ずつ確実に進めていきましょう。

## いよいよ実践！

ここまでの手順で不安な点がなければ、思い切って実践です。  
あなたに合った最良の進め方で無理なく進めていきましょう。



# Interview

 生産者インタビュー：現場の声から見えること

## 地域の未来と環境

## 家族の暮らしを守れる農業を

## 次の世代へつなげていきたい

### 佐原 裕司さん

就農：59年目

主な生産物：水稲、畜産（肉牛繁殖）



### “土づくり”へのこだわり

佐原さんが最も重視するのは土づくり。25年以上にわたり環境にやさしい農業に取り組んできた佐原さんは、土壌分析を通じて微生物やミネラルの重要性を学び、ほ場ごとの特性を見極めながら、独自の栽培管理技術を磨き、実践してきた。「環境にやさしい農業に向く田んぼ、向かない田んぼがある。地力があり、病気になりにくい場所であれば継続は難しい」と話す。納得のいく米を作るために、自分の能力の中でできることを続け、「経験しながらフィードバック（実践）」していくことが重要だと教えてくれた。

### 震災で気付かされた、“信頼を積み重ねる価値”

東日本大震災のあとに、風評被害の影響は大きな痛手となった。これまでの関西・関東での販路を失い、販路は福島県内に限定されることに、、、。しかし、地元の保育園や酒蔵とのつながりは途絶えることはなく、現在まで続いている。佐原さんは、「取引が続いている酒米のように、関係を積み重ねてきた相手がいることの大切さを強く感じました」不安定な状況でも継続できたのは、「日々のつながりの中で築かれた信頼関係があったから」と語る。

### “環境にやさしい農業”を次の世代へ

佐原さんは、若い世代への引き継ぎも強く意識している。「自分たちがリスクを負ってやってきた分、次の世代にはできるだけリスクを減らした形で渡したい」と話す。働きやすい環境づくりや、地域での助け合いを大切にしながら、農業を続けられる土台を残すことが、自分の役割だと考えている。「地元を守り、環境を守り、家族を守れる農業であってほしい」。長い時間をかけて農業に向き合ってきたからこそ、その言葉には重みがある。

## ここ喜多方で、有機農業を 仲間とともに育てていきたい

あいだ農縁

相田 恭平さん

就農：10年目  
栽培品目：水稲、大豆、ミニ  
トマト、ピーマン、はくさい、  
じゃがいも等

サンライズファーム

小島 潤さん

就農：12年目  
栽培品目：ミニトマト、にんじん、  
こまつな等

### 有機農業で実感した“段階的に進める”大切さ

現役で環境にやさしい農業に取り組む相田さんは、有機農業の中でも「除草が一番大変だった」と振り返る。引き継いだ田んぼをすべて有機で進めるつもりでいたが、実際に作業を始めると想像以上に労力がかかり、身体への負担も大きかった。一部のほ場では無理に有機へ切り替えるのではなく、特別栽培にとどめる判断をした。「段階的に試すことには意味がある」。すぐに答えを出すのではなく、1歩ずつ前に進もうとする姿勢が、相田さんの挑戦を支えている。

### 有機農業は“栽培技術だけでは続かない”

小島さんは、慣行栽培から転換した経験を持つ中で、売り先の確保や流通の組み立てに苦労してきた。「現状では規模拡大が難しく、物量の確保が困難であるため、限られた収量の中で利益を高めていく必要がある」と語る。生鮮品だけではなく、加工向けの販路も持つことでリスク分散にもなり、収益性も高められる。小島さんは農産物の出口を見据えた経営判断を積み重ねてきた。有機農業を続けていくには、技術だけでなく、販売・流通、加工及び消費を含めた“全体を見る力”が欠かせない。

### 困難を乗り越えて行ける“仲間の存在”

相田さんにとって、小島さんのように広い視点で農業を捉える仲間の存在は大きい。思うように管理が進まなくて落ち込んでいた時期でも小島さんはそばで見守り続けた。その関係性があったからこそ、相田さんは立ち止まりながらも農業を続けてこられたという。それに対し小島さんは「一緒に有機農業をやっているから学ぶ部分もあるし、自分が教わる部分もある。悩みを共有していく中で、互いに考えてやっているとよい」と話す。

新たに有機農業に取り組むときに、最も大切なのは志を同じくする仲間の存在なのかもしれない。

# 環境にやさしい農業との相性チェック！

自分が環境にやさしい農業に取り組むことを前提とし、“相性を確認できる”簡易チェックツールを用意しました。5分ほどで記入できますので、ぜひ試してみてください。

以下の質問について、「はい・どちらともいえない・いいえ」で教えてください。  
 [ はい：2点 どちらともいえない：1点 いいえ：0点 **最大24点** ]

## 考え方・価値観

- 一時的に収量が落ちても、長期的な土づくりを優先したい .....
- 「正解のない栽培方法」を試行錯誤することにストレスを感じにくい .....
- 慣行栽培に戻したくなる場面でも、すぐには諦めない .....

## 経営・収益構造

- 慣行栽培と比べて、収入が不安定になる可能性を理解している .....
- 直売・EC・契約など販路を自分で考える意欲はある .....
- 量より品質や価値で評価される販売に関心がある .....

## 技術・作業特性

- ほ場をこまめに観察し、トラブル対応を負担に感じず行える .....
- 作業や栽培データを記録し、振り返る習慣がある、又は持てる .....
- 除草など手間が増えても、その意味を理解して取り組める .....

## 体制・環境

- 家族やパートナーは、環境にやさしい農業の難しさやリスクを理解している .....
- 相談できる生産者・指導者・仲間がいる、又は探す意欲がある .....
- 小区画・少量から段階的に導入する進め方を現実的に考えられる .....

総合  
判定

20点以上の方：環境にやさしい農業にとっても向いています  
 16～19点の方：環境にやさしい農業に向いています  
 15点以下の方：十分な計画・目標を立てて段階的な導入を検討しましょう

合計



結果はどうでしたか？



環境にやさしい農業 に取り組むには  
 “自分に合った準備”が大切です！

環境にやさしい農業に取り組む際は、自分の経営資源（規模・労力・財源など）を踏まえ、理想の営農スタイルから逆算して準備することが大切です。まずは小区画・単一作物から段階的に進めるなど自分に合った方法を検討していきましょう。

※ 本ツールでの結果は、あなたの思考特性との“相性”を数値化した参考情報です。  
 結果は断定するものではなく、自己理解を深めるための補助としてご利用ください。

## 相談窓口のご案内



問い合わせ先	喜多方市産業部農業振興課
	☎ 0241-24-5235
内容	環境保全型農業直接支払交付金等の制度について 環境にやさしい農業の研修等について
問い合わせ先	会津農林事務所喜多方農業普及所
	☎ 0241-24-5743
内容	栽培技術（作物・野菜等）について 経営計画（営農計画書の作成）について
問い合わせ先	会津農林事務所経営支援課（有機担当）
	☎ 0242-29-5317
内容	有機農業（技術・経営等）について
問い合わせ先	福島県農業総合センター安全農業推進部 （指導・有機認証課）
	☎ 024-973-5043
内容	有機JAS認証の取得について

## もっと情報を知りたい方へ



喜多方市 HP「環境にやさしい農業（有機・特別栽培等）ポータル」



喜多方市の環境にやさしい農業の取組みについて紹介しています。  
本冊子に登場した相田さんと小島さんも動画に出演していますので、ぜひご覧ください。



## お問い合わせ

喜多方市環境にやさしい農業推進協議会（喜多方市産業部農業振興課）

〒966-8601 福島県喜多方市字御清水東 7244 番地 2

TEL：0241-24-5235

FAX：0241-25-7073

Mail：[noushin@city.kitakata.fukushima.jp](mailto:noushin@city.kitakata.fukushima.jp)